

## 〈高学年分科会 実践発表〉

# 主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 ～中学校への滑らかな接続をめざして～

那賀郡木頭小学校教諭 中山 愛梨

## 1 はじめに

本校は、徳島県の南西部の山間部に位置する自然に囲まれた学校である。学校のある那賀町木頭（旧木頭村）は人口約1000人が居住しており、主に林業が盛んである。そして、柑橘系である“ゆず”の名産地でもある。学校は、近くを流れている那賀川や石立山などの多くの自然に恵まれ四季の移り変わりを肌で感じることができる。

本学級の児童は、外国語科の学習に対する興味・関心は高い。アンケート結果でも、全員が外国語の学習に必要性を感じると回答しており、その理由には、「将来使えるから」「外国の人と関わる時に必要だから」などを挙げていた。しかし、授業での言語活動では、英語で自分の考えや気持ちを伝えることに消極的な児童が多く、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度に課題がある。そして、そのほとんどの児童は中学校での英語学習に対して、「内容が難しくなりそうで不安」と感じていることがわかった。

この実態を踏まえ、小学校外国語科で求められている資質・能力をしっかりと育成し、間違いを気にせず自信をもって英語を使って表現できるよう環境や授業づくりに配慮して日々の授業を充実させることが、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に繋がると考え、実践を行ってきた。本稿では、小中一貫校の特性を生かしたその取り組みの一端を紹介する。

## 2 主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するための手立て

### (1) 英語を通じてつながる場面の設定(小・中, 異学年, 教員等)

小中一貫校や少人数学級の特性を生かして、英語を使った多様な交流の機会を設ける。上級生や下級生に英語で自分の考えや気持ち、調べたことを伝える活動を行ったり、授業内外で中学校の教員やALT、地域の外国人と関わる機会を増やしたりして、英語を用いたコミュニケーションの楽しさを実感させ、英語を使うことへの抵抗感を減らし、積極性を育てる。

### (2) 言語活動を重視した授業実践

#### ① 児童の動機づけを高める単元ゴールの設定や教材の工夫

児童にとって身近で興味・関心に沿った題材を扱い、「やってみたい」「伝え合いたい」という思いを引き出すような、魅力的な単元ゴールを設定する。

#### ② Small Talk の継続的な実践

語句や表現の定着を図るとともに、反応をしたり質問したりして会話が継続できるように細かいステップで指導を行う。そのことにより、コミュニケーションを図る楽しさを実感させ、自信や意欲を育てたい。

#### ③ 中間指導の工夫

当該時間のねらいに沿った中間指導を行い、言語活動の充実を目指す。児童が自分の活動を振り返り、自己調整が図れるよう教師や他の友だちのモデルの掲示など多様な手立てを講じる。

#### ④ 振り返りシート

児童自身が本時の学習を振り返り、次への課題等を記述させるようにしている。児童が自己の成長や課題を確認したり、指導者が児童の実態を把握し指導改善につなげたりする資料となる。

### 3 授業実践例 \* 2に挙げた手立てを意識して、授業実践を行った。

(1) 単元名 : Lesson 2 We have Children's Day in May.

聞いて！見て！こんな行事があるよ！（CROWN Jr. 6）

(2) 具体的な手立てと児童の様子

#### ① 児童の動機づけを高める手立て

児童の興味・関心を引くとともに、本時の活動で使える既習表現を想起させることを目的として、行事に関するスリーヒントクイズを、学級担任が出題した。児童は、既習表現を理解し、積極的にクイズに参加することができた。

#### ② Small Talk の継続的な実践

「好きな行事」をテーマとした Small Talk では、リアクションカードを示し、ALT や中学校英語教諭、友達など、相手を変えて何回も行ったことにより、自己調整する姿が見られた。

#### ③ 中間指導の工夫

中間指導の場面では、「木頭に来てくれている ALT が、徳島や木頭の行事に参加したいと思ってもらえるような紹介にしよう」という目的や場面、状況を確認するとともに、中学校英語教諭からの伝統行事に関する紹介を聞かせる場を設定し、児童が現在の紹介について振り返り、改善すべき課題を見つけられるようにした。その結果、行事などについての情報を付け足したり、質問を加えたりするなど工夫が見られた。ただ、「思考・判断・表現」し、よりよい紹介にするためには、単元前半で「知識・技能」をしっかり育成する必要があると感じた。

#### ④ 振り返りシート

「Small Talk でもっと会話が続くようにしたい」「新しい表現を言えるようにしたい」などの前時の振り返りを、本時の指導につなげた結果、前時より成長した児童の姿が見られた。また、本時の振り返りでは、「中学校の先生の真似をしたい」「もっとよい紹介にしたい」など、次の学びへの課題意識や意欲が感じられた。

### 4 成果と課題

- 単元の最終目標を自分の身近なものにすることで、自分事として捉えて考え、一生懸命に伝えようとすることができたり、相手意識をもたせることで、どうやったら相手に伝わるか考えて発表したりやりとりしたりすることができるようになった。
- 中学生との交流を通して、先輩から中学校の英語の学習について情報をもらい、一緒に活動することを通して、徐々に中学校での英語学習に興味を芽生え始めた。
- ALT や中学校英語教諭、友達など、様々な相手とたくさんやりとりする時間を作ってきたことにより、外国語を使って自分の思いを伝えることに積極的になってきつつある。“自分の考えや思いを伝える”ということは、今後どのような場面においても必要なことで、授業を通して児童の自信に繋がっていると感じた。
- Small Talk のテーマを工夫したり、リアクションカードを充実させたりして、表現の幅を広げる必要を感じている。
- 単元の構成をよく考え振り返りシートをしっかり練ることで、次時への学ぶ意欲に繋げるとともに、児童の不安や苦手意識に気づいて授業を組み立てていきたい。

### 5 おわりに

研究を進める中で単元を構成する時、「どうしたら児童が興味をもってくれるだろうか」「どうしたら楽しくコミュニケーションをとってくれるだろうか」と考えることが多かった。常に児童の目線に立ち、目指す児童の姿を明確にして単元や授業計画を立てることの重要性に改めて気付かされた。今後も児童と共に楽しみながら、外国語の授業を進めていきたい。